

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜城北高等学校 学校番号 8

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 一人一人の個性を伸ばすとともに豊かな人間性を培う。 (2) 学力の向上とともに幅広い教養を身に付ける。 (3) 社会に貢献できる心身ともに健やかな生徒の育成を図る。	
2 評価する領域・分野	◇生活デザイン科・生活文化科	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・「信頼できる授業内容」「コンクールや検定への取組」の項目では80%を超える生徒が肯定的な評価であったが、「説明がわかりやすい」「多面的な評価」の項目では評価が低くなった。「ICTを活用した学習活動や協動的な学びの機会が理解につながっている」の項目では肯定的な評価が62%と特に低く、授業改善の必要がある。 ・「基本的モラルやマナーを身に付ける」の項目では肯定的な意見が多いが、行動が伴わない生徒もいる。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇ICT機器を活用した学習や参加型、体験型学習を取り入れ、基礎的・基本的な知識や技術の定着を図る。 ◇コースの特性を生かした取組や学校家庭クラブ活動の充実を図る。 ◇継続したマナー指導を行う。 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用した授業教材の研究 ・各種講習会及び成果発表会の実施、コンクールへ検定への挑戦 ・分掌や学年と連携した指導 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) ICTを活用した授業を実践し、授業参観や研究授業を通して授業改善を図る。 (2) コースの学びを生かしたコンクールや検定に挑戦させる。 (3) 学校生活の様々な場面を通して社会人として必要なモラルやマナーを身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 授業の自己評価、授業アンケート (2) コンクール応募数や検定の合格状況 (3) 生徒の意識や行動 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した授業実践及び授業参観及び研究授業の実施 ・各種コンクールや検定への挑戦 ・継続したマナー指導 	<ul style="list-style-type: none"> ①評価結果及びアンケート結果 ②コンクール応募数・検定合格者数 ③生徒の意識や行動の変化 	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A B (C) D</p>
11 成果・課題	<p>○授業参観や研究授業を通して、工夫した教材やICT機器を活用の情報を交換し、分かりやすい授業につなげることができた。</p> <p>○各種コンクールに応募し、各コースとも入賞等の成果を挙げることができた。</p> <p>▲学習支援ソフトやICT機器を効果的に活用できるよう教員のスキルアップが必要である。</p> <p>▲基礎的な技術の定着度を確認する家庭科技術検定4級合格者の増加につながる指導方法の工夫が必要である。</p> <p>▲マナーの定着も見られるが、TPOに応じて判断する力が乏しい。特にスマートフォンの利用マナーを身に付けさせることが課題である。</p>	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器や学習支援ソフトを活用している教科の授業参観を積極的に行い、スキルアップを図る。 ・各種講習会や家庭クラブの活動を通して、また、各部と連携しながら継続的にマナー指導を行う。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月14日

・高校3年間の集大成として、各学科の課題達成に取り組んでいる。卒業発表会が、今の自分に何ができて、何ができないかを見い出せるよい機会になった。早い段階で普通科にはない経験ができています。本人の進路にも関わってくるので、今後も指導をお願いしたい。

・各学科の特性を生かした発表会が実施されており、素晴らしい。この経験を通して生徒は達成感を味わい、次のステップへの自信になっている。